

## “たちどまる”

伊豆山 明子

たちどまる このテーマをいただいてから、じつと考えているうちに、私の頭の中には、たちどまる、とは「とどまる」ことなのに、いろいろな思い出や、事柄が、どんどん流れ始めてきました。

“たちどまる”とは、新しい生活の出発点である、と定義づけたくなり、自分の生活や、現在の幼児の姿が、つぎつぎと浮かんできました。

幼稚園の教師として、ただ夢中で過ごした約二十年間は、目の前の幼児のことや、自分のクラスのことだけで終始し、精一杯でした。

そしてその時は、それだけで満足していたようにも思いますが。

その当時、よく感心したり、不思議に感じたことのひとつに、数クラスもある幼児の中から、あの子は少し工合が悪いのではないのか、とか、この子は様子がおかしいから熱を計ってみたら、など、注意をしてくださった主任の先

生の千里眼力や、超人的な観察力でした。やがて、私も転任し主任となり、今までと異なる立場として、戸惑いながら続けてから早や七年も過ぎてしまいました。

七年前の心境や、感激が、今よみ返ってきました。クラスを持っていた時は、一点しか見られなかったことが、園全体の幼児の姿が目に入り、いろいろと気付くことができようになりました。そして、また、園児をこんなふうにしたい、あのようにしたら、と大きな夢が胸をうずかせたことです。

この時が、私の人生の道で一度おおきくたちどまった時であると思います。この時に過去の二十年間をしみじみと振り返り、これからの前途を見つめて、新しい出発をしたことになるのでしょう。

四月に入園してくる園児たちは、さまざまな心理状態でありましょう。特に内気な子どもは、新しい社会に自分の身を置くだけでも精一杯で、夢中で数日間を過ごし、やっ

と周囲を見わたせる余裕ができるようになって始めて、敵中にある自分を感じたり、自分の思い通りにならないことに気付き、幼稚園の生活に恐れを感じたりする姿をよく見かけます。こんな時、周囲からの励みや、自分で何とか打ち勝つことにより、次の生活に一步踏み出せることであり、これが、この子どもの社会生活の道で、たちどまったことの重要な意味を持つことであると思います。

このように、たちどまる ということを生活の場面に照らし合せていくと、心理的、精神的に、また、行動の面にも、数多くあることに気付いてきました。

鬼ごっこで夢中で逃げ回っている子どもが、鬼から逃げ切り、ほっとしてたちどまる、その時の満足そうな顔、そして、また新たな意欲をもって走り始めます。これが、いかげんに走っていたり、いやいや走っていたらこのたちどまる、という行動には、何の意味も価値もなくなるのでありましょう。

自分の力を出し切って活動する、また、何事にも真剣に考えるときか、夢中であそびや、仕事に取組めることは、子どもでも、大人でも大切であることは、言うまでもないことです。

しかし、それらの活動は、常時続いていることは不可能なことであり、必ず、その活動がとどまることがあるわけです。

私のこれからの生活においても、無限に、たちどまる、と言うことがあると思いますが、意義のある、価値のある、たちどまりであるために、努力や、精進をしてゆきたいと思います。それがまた、幼児に働きかける貴重なエネルギーになることを信じて……。

「たちどまる」というこの何げない言葉が、たくさん意味を持ち、味わいのあることを知る機会を与えて頂いたことを感謝し、これをもとに、明日からの子どもたちとの生活に、意欲を燃やし、新しい出発をしたいと思えます。

(からすもり幼稚園)

